

2015.6.9 事業者のためのリスクコミュニケーションセミナー

リスクコミュニケーション取組事例報告 「交流会(リスクコミュニケーション)」

2015年6月9日
NECトーキン株式会社
瀬戸 正

目次

- * **NECトーキンの紹介**
- * **交流会(リスクコミュニケーション)開催**
 - ・経緯等
 - ・実施事項
 - ・留意事項
 - ・当日のプログラム
- * **交流会を実施してみたの感想**
- * **アンケート結果(事前・事後)**
- * **参考)環境への取り組み**

NECトーキンの紹介

■ 会社概要

会社名	: NECトーキン株式会社
代表取締役社長	: 小山茂典
本社所在地	: 宮城県白石市旭町七丁目1番1号
資本金	: 342億8千万円
売上高	: 536億円 (2014年度)
従業員数	: 連結 7,676名 (国内:1,101名 海外:6,575名)
生産工場	: 7 (国内 3 海外 4)
ISO9001	: 認証取得 2004年3月16日
ISO14001	: 認証取得 1998年9月25日

(2015年1月末日現在)

■ 白石事業所概要(リスコミ実施拠点)

従業員数	: 563名(男性90%, 女性10%)
敷地面積	: 159,800m ²
建築面積	: 33,600m ²
勤務体制	: 製造部門は3交代制24時間操業



白石事業所

会社沿革と事業領域

東北帝国大学金属材料研究所

発明成果の企業化「KS磁石鋼、センダスト」

[昭和13年 9月(1938年)]

東北金属工業(株)

[昭和63年10月(1988年)]

(株)トーキン

[平成14年 4月(2002年)]

NEC トーキン(株)

[平成25年 2月(2013年)]

逓信省 (現 NTT)

通信機器用磁性材料の
国産化(勸奨)

出資

日本電気 富士通他、
大手通信機器メーカー

統合

NECの電子部品3事業を統合
(タンタルキャパシタ、リレー、電池)

提携

KEMET社と事業提携

事業領域

エレクトロニクス社会の先進アプリケーションを支える多種多様な電子部品

NECトーキンはこの電子部品市場を事業領域として活動を展開

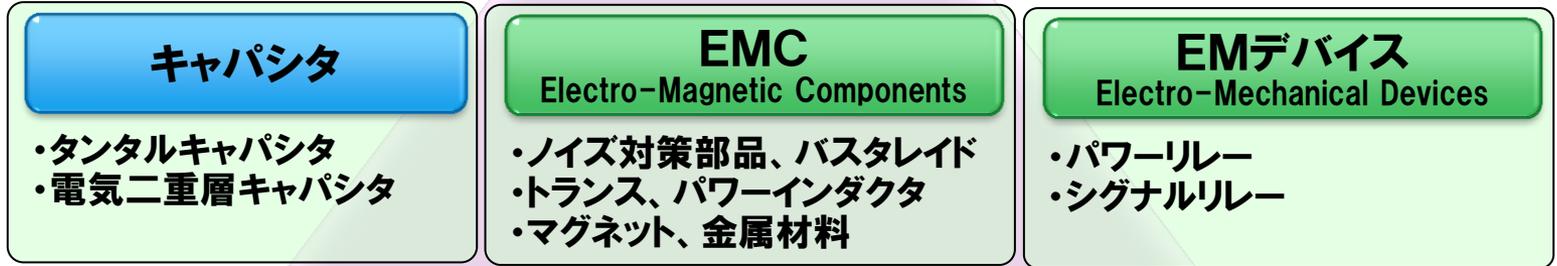
コア技術と製品・市場

独自材料をコア技術として新製品を市場投入

展開市場



製品



コア技術



主な製品 ①

■ キャパシタ事業部製品

： 電気エネルギーを充電・放電する部品(コンデンサ)

☆ タンタルキャパシタ



スマートフォン

☆ スーパーキャパシタ (電気二重層キャパシタ)



スマートメータ

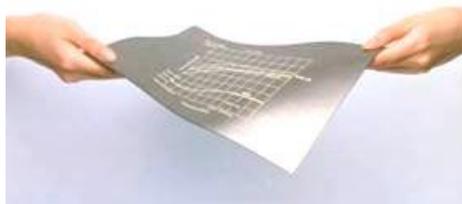
■ EMC事業部製品

： **E**lectro **M**agnetic(電磁技術)を応用した製品群

パワーインダクタ



バスタレイド (ノイズ抑制シート)



ノイズ防止部品

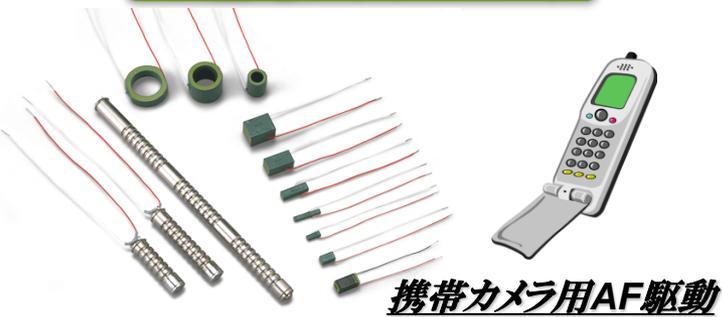


主な製品 ②

■ センサ・アクチュエータ事業部製品

： 部品に電圧を掛けると伸びたり縮んだり、又は力を加えると微小な電圧が発生

☆ 圧電アクチュエータ



☆ 圧電振動子

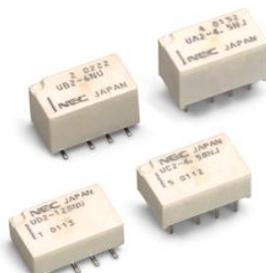


☆ 圧電センサ

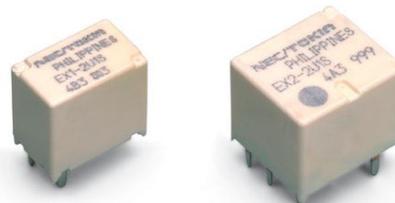


■ EMデバイス事業部製品

☆ シグナルリレー



☆ パワーリレー



交流会(リスクコミュニケーション)開催 (経緯等)

■ リスコミに対するこれまでの対応状況

☆ 2010年度

- ・「事業者のためのリスクコミュニケーション」セミナー受講
- ・「ケーヒン角田第一工場」殿 実施状況傍聴

☆ 2013年度

- ・「三丸化学」殿 実施状況傍聴

◇ 2014.11 宮城県より実施の提案 ⇒ 12月リスコミ開催を決心

開催の決心が
つかない期間

■ リスクコミュニケーション開催の目的

- ・相互理解の促進
 - 当社の取り組みの紹介
 - 地域住民の方の意見確認
- ・地域の方々との信頼感醸成
- ・地域をより良くするための意見交換の場

実施決定から当日までの主な実施事項

- ☆ 2015. 1.15 第1回関係者打合せ(宮城県、白石市、NECトーキン)
 - ・リスクコミュニケーション事業について
 - ・アンケート等について
- ☆ 1.15～1.27 県と事前アンケート、参加依頼文書等の内容確認と調整
- ☆ 2015. 1.28 近隣4地区自治会長へ事業開催案内とアンケート配布
- ☆ 2015. 2.13 第2回全関係者事前打合せ
 - (アドバイザー、ファシリテータ、宮城県、白石市、NECトーキン)
 - ⇒弊社から事業内容、工場見学ルート等を説明し、アドバイザー等より当日の進め方に関してアドバイスを受ける。
- ☆ 2015. 2.17 近隣地区自治会長及び土地改良区へ参加依頼
- ☆ ~3.4 会社紹介資料、事後アンケート等の準備
- ☆ 2015. 3. 5 開催当日

開催に当たっての留意事項

☆ 当社の活動に対する認知度を把握すること

⇒ 事前アンケートに当社取組事項に対する認知度を確認する設問追加
取組事項; ex. 各種社会貢献活動、交通安全取組など

☆ 事前アンケートの回収率向上(多数の方の意見を得る)

⇒ 1通ごとに依頼文、返信用封筒を準備(回収率85%)

☆ 工場見学の選定

⇒ 白石事業所の代表的製品生産ライン
PRTR届出物質を使用している生産ライン

参加者と当日のプログラム

参加者

地域住民代表者(自治会長)	10名
白石市	1名
宮城県	5名
化学物質アドバイザー	1名
ファシリテーター	1名
傍聴者(県内事業者)	12名
NECTーキン	10名

合計 40名



当日のプログラム

14:00	開催あいさつ	NECTーキン(株) ものづくり支援本部長
14:03	リスクコミュニケーション事業説明	宮城県環境生活部 環境対策課
14:10	化学物質に関するセミナー	化学物質アドバイザー
14:30	企業紹介	NECTーキン株式会社
14:40	環境への取組み	NECTーキン株式会社
14:50	工場見学	NECTーキン株式会社
15:30	意見交換会	ファシリテーター
16:05	閉会挨拶	NECTーキン株式会社

交流会での質疑応答内容(抜粋)

■ 質疑応答の中での質問

- ・煙突からの黒煙は何か？
- ・火災対策はどのようにしているのか？
- ・工場周辺で臭いがするが何か？
- ・分解しない化学物質は使用しているのか？
- ・廃棄物、排水対策は？
- ・化学物質が漏えいする可能性はあるのか？

■ 質疑応答で寄せられた意見・要望

- ・不定期で結構だが、企業で行っている催しや改善活動を地域住民向けに発行してもらえないか？
- ・地域内でもいろいろと活動しており、地域の活動に企業としても協賛してほしい。(花苗寄贈等)

交流会実施後の新たな対応

■ 交流会の中で要望があった「会社内での催しや改善事項などをニュースとして地域住民向けに発行して欲しい」を受け、「企業ニュース」として発行することを決定。

第1号を5月25日発行
(記事の量はA4紙 2枚程度)

余録

このニュースの中の「鯉の里親募集」記事をきっかけに新たな出会いも生まれました。



第1号“企業ニュース”



ご挨拶 (ものづくり支援本部 本部長 白石 雅彦)

新緑がまぶしい季節となりましたが、皆様方にはいかがお過ごしでしょうか。平素は、NECトキンへのご理解とご協力を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

この度、NECトキンでは、地域の皆様と弊社の交流ならびに弊社探求のより一層のご理解を賜る事を目的に、広報誌を発行する事となりました。

広報誌では、NECトキンの活動状況、安全・環境への取り組み、行事など弊社の活動を、広く皆様にお伝えすることを考えております。

今後は広報誌を通じて、皆様へ様々な情報をご提供させていただくとともに、より多くの方々からご意見をいただき、弊社での一層の安全探求の取り組みに役立て、地域の皆様と親しみを感じていただけるよう努力して参りたいと考えております。今後ともよろしくお願いたします。

□ トーキン科学振興財団

NECトキンでは地元宮城県の若手研究者を応援するため、「トーキン科学振興財団」を設立し毎年3月の贈賞式で賞と賞金を贈っています。平成2年度からこの事業を始め、今年で25回目となりました。これまでの受賞者は207名になります。

今年度は東北大学、東北工業大学、仙台高等および東北文化学園大学から11名の若手研究者(27歳から36歳)にトーキン科学技術賞などが贈られました。



受賞者の皆様



受賞代表者による記念講演

□ 入善町からチューリップ

NECトキン富山事業所を通じて、富山県入善町の保育園から毎年チューリップの株をいただいております。今年の花期は終わってしまいましたが、育てた球根を来年も秋かせようと引き続き育成中です。



交流会を実施してみたの感想

■良かった点(アンケート結果より)

- ・当社に対する認知度がまだまだ低いことを再認識できた。
- ・会社に対する理解が深まり、当初目的である相互理解促進が図れたと思われる。
- ・地域住民の方の意見に接し、会社を第三者の視点で見つめる機会と意識改革が図れた。
例：地域住民の方の要望を受け、「企業ニュース」を発行した事
- ・社員では気付かない着眼点があり、これからの改善を進める上でたいへん参考になった。(交通安全指導、工場煙突など)

■反省点

- ・出席案内書に「工場地図」を記載すべきであった。
(交流会当日、隣の工場に行かれた参加者が居た)
- ・参加者の入場手続きを通常通り行ったため、地域住民の方に戸惑いを起こした。(手続きの簡素化)
- ・見学場所への移動に時間が掛り、実際の見学時間が短かった。
(見学ルート、時間配分を十分検討すべき)



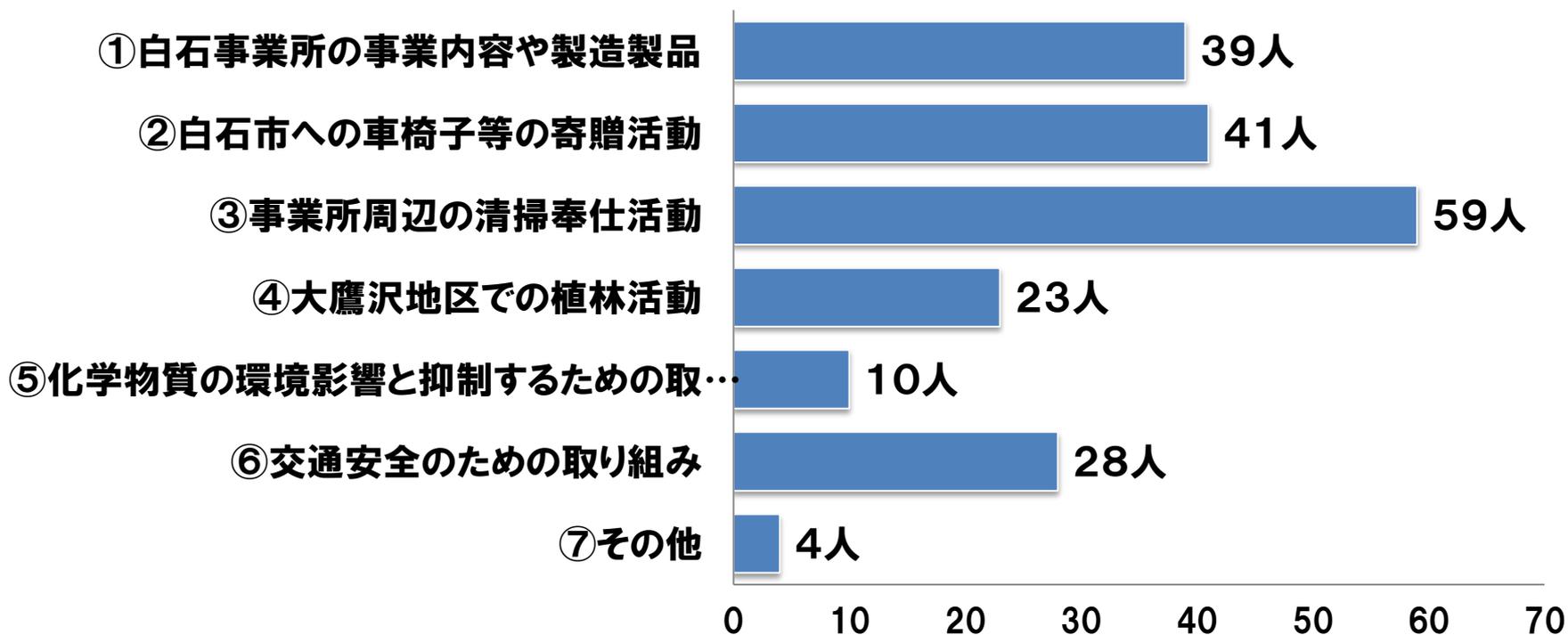
アンケート結果(事前・事後)

事前アンケートの結果 ①

【設問 1】

☆ NECTーキンについて知っていること

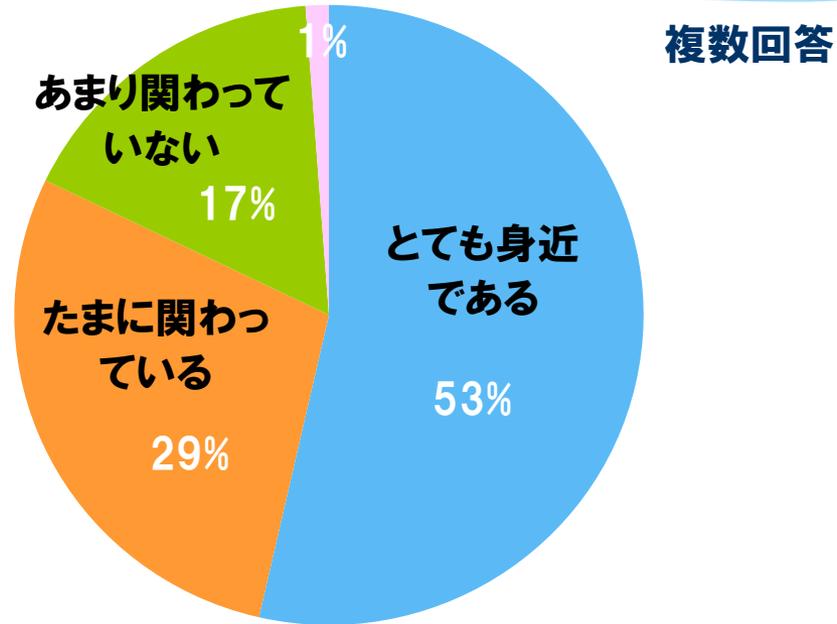
複数回答



事前アンケートの結果 ②

【設問 2】

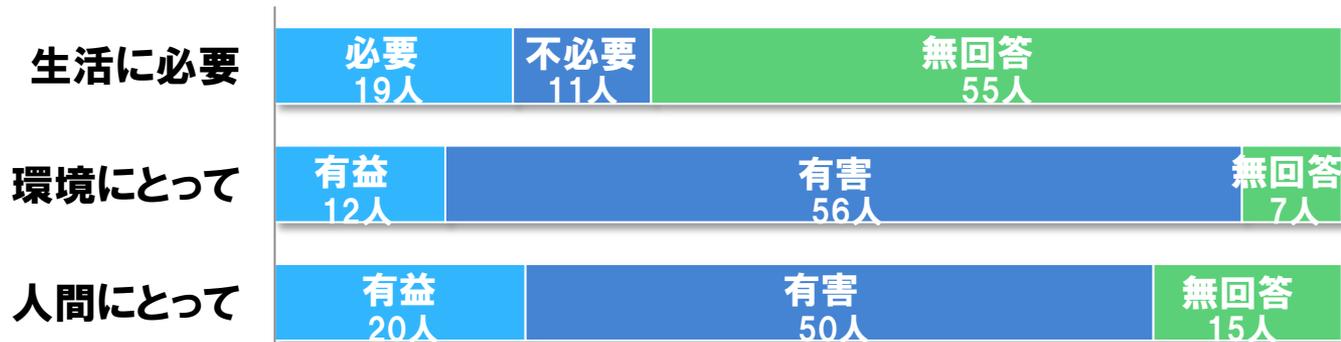
☆ 化学物質との関わり



【設問 3】

☆ 化学物質に対するイメージ

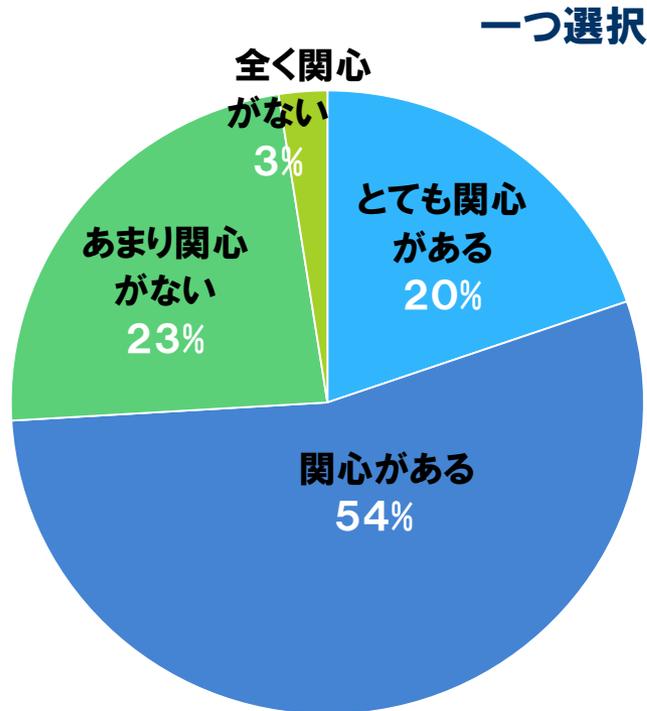
一つ選択



事前アンケートの結果 ③

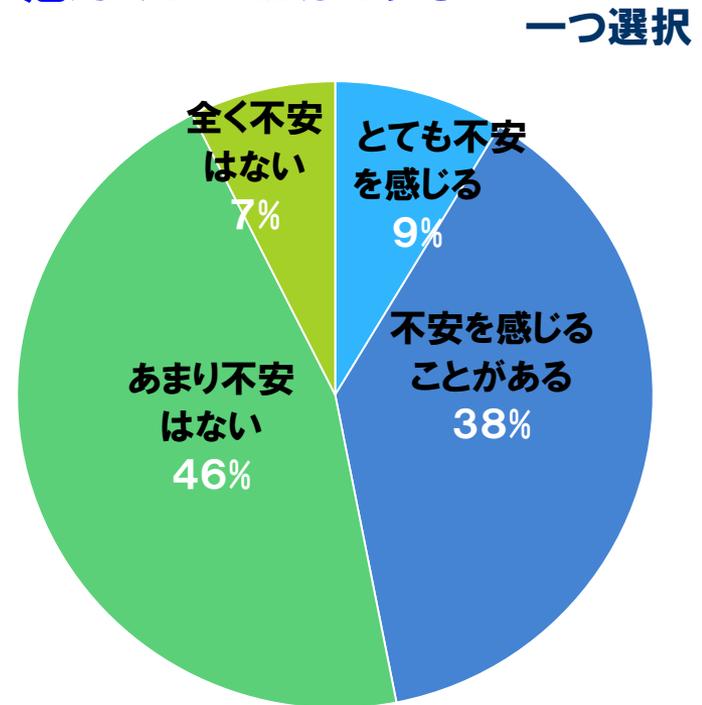
【設問 4】

☆ NECTーキンで扱っている
化学物質に対する関心



【設問 5】

☆ NECTーキンで扱っている
化学物質に対して不安を
感じたことがある

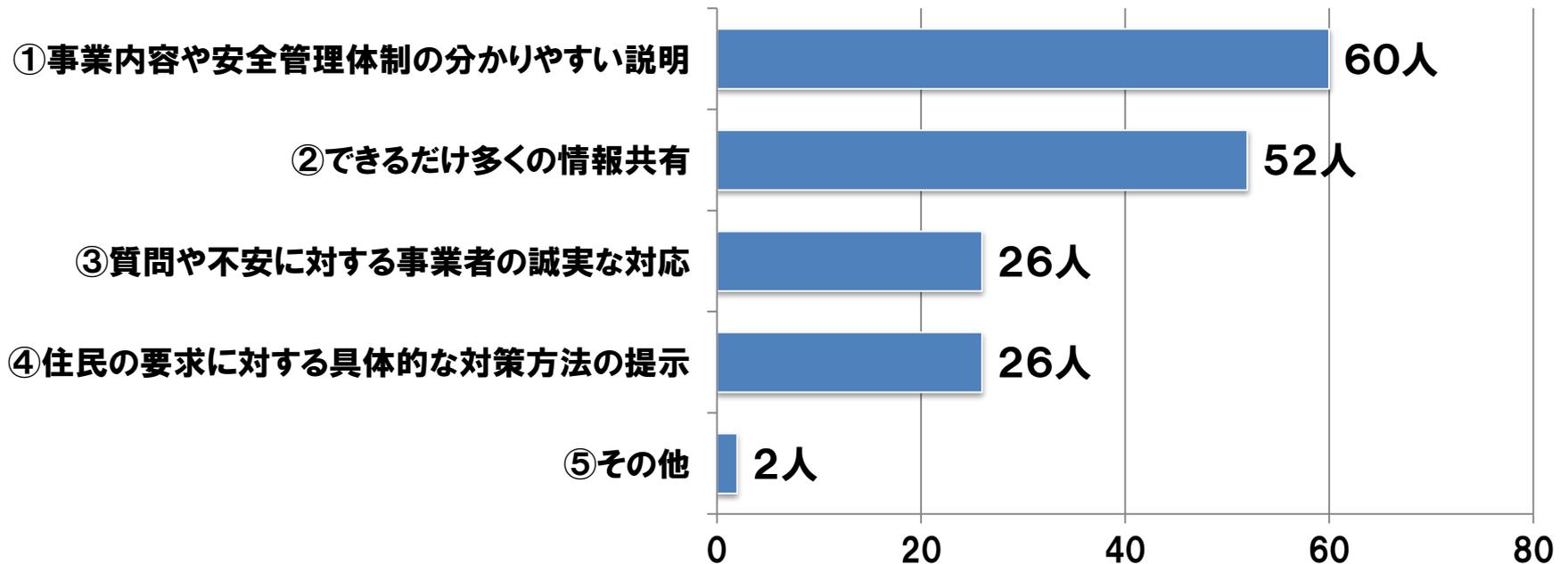


事前アンケートの結果 ④

【設問 6】

☆ 交流会に期待すること

複数回答

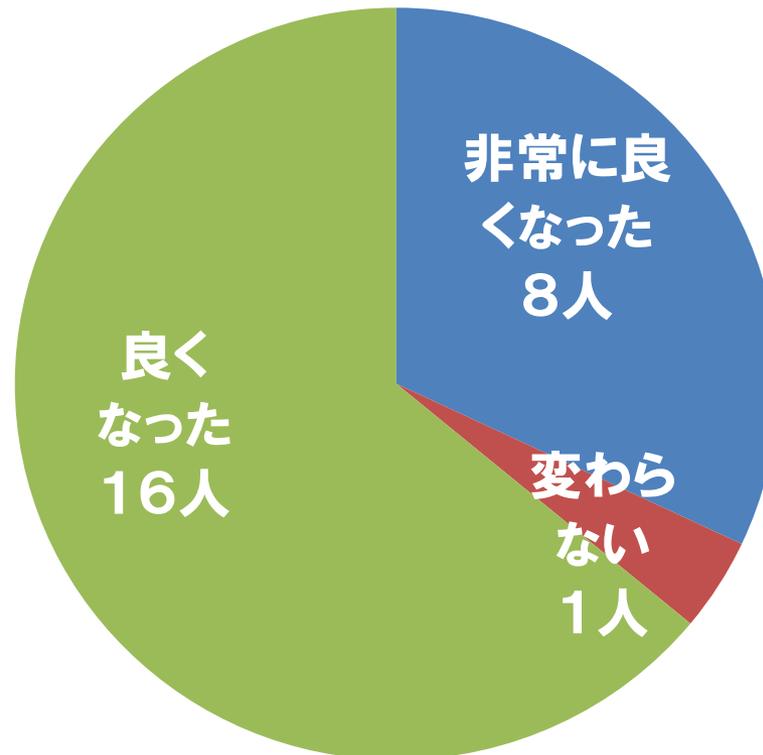


事後アンケートの結果 ①

【設問 1】

NECトークンに対する印象は
どのように変わりましたか？

総回答数25名

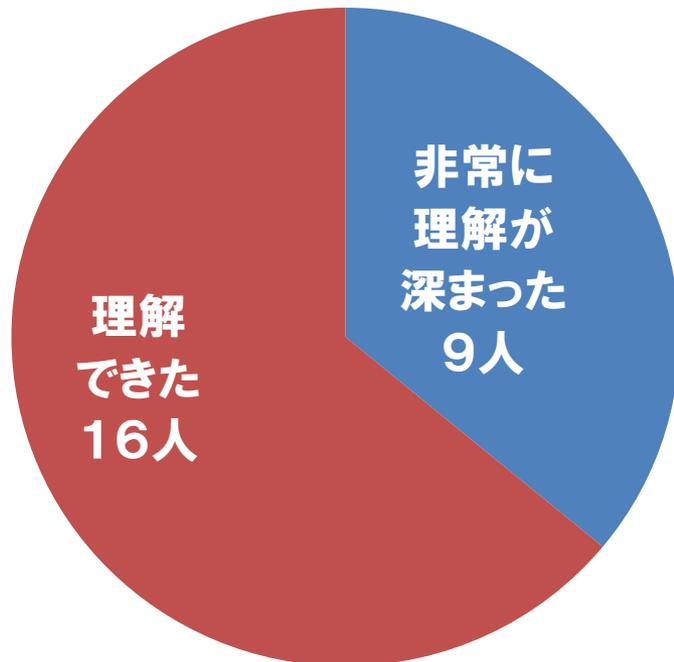


事後アンケートの結果 ②

総回答数25名

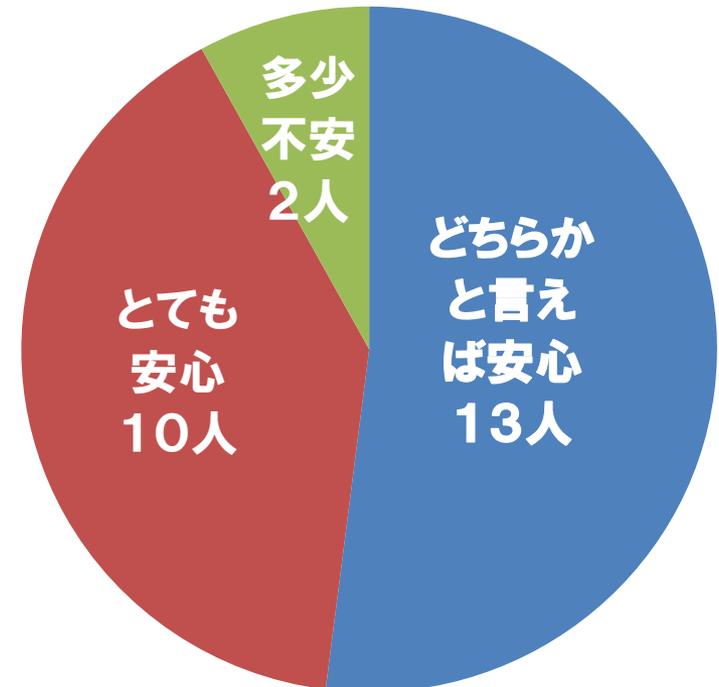
【設問 2】

NECトーキンの化学物質
管理に対する理解



【設問 3】

NECトーキンの化学物質
管理に対しての安心

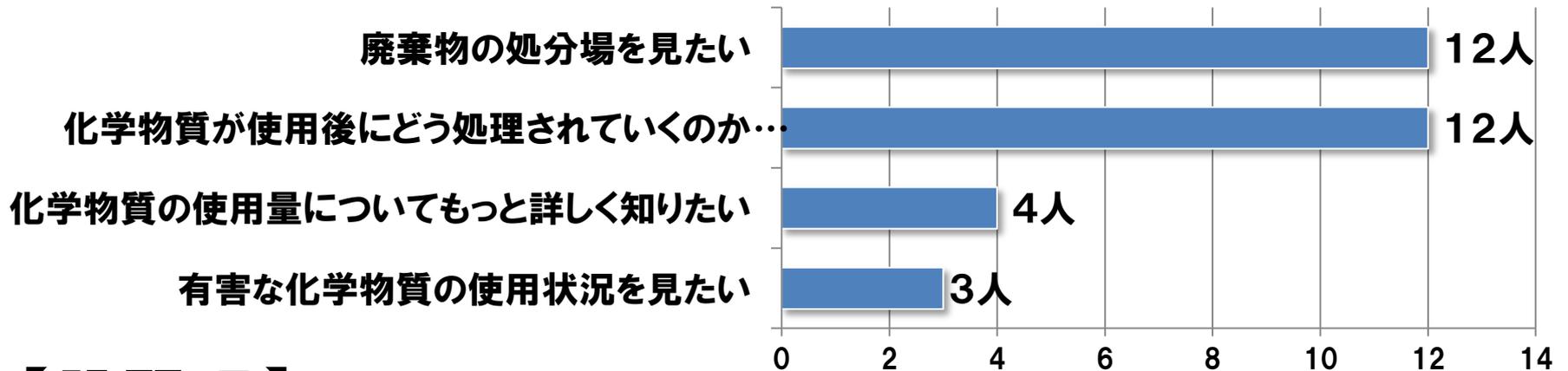


事後アンケートの結果 ③

【設問 4】

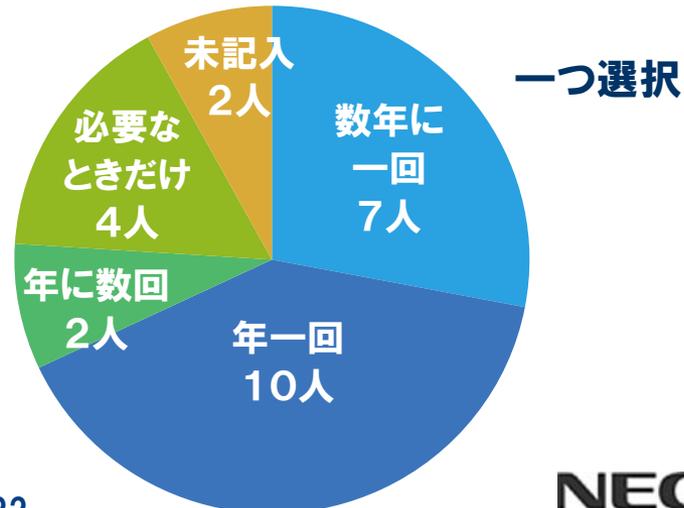
化学物質管理の取組みに対し、
もっと詳しく知りたい情報は？

複数回答



【設問 5】

交流会を開催する場合、開催
頻度はどの位が適当ですか？



一つ選択

ご清聴ありがとうございました。